

第35回 同窓会総会 オンライン開催 [12/14水] 19:00～]配信

同窓生の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。さて、第35回名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会総会(以下「総会」とします)につきまして、今年も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面決議の方法により総会を行うことと致します。

つきましては、総会の目的事項として同封いたしました別紙のとおり各議題を提案いたしますので、ご確認の上、議案に同意いただけましたら返信ハガキの議決権行使書にご署名、ご返送くださいますようお願い申し上げます。(12月8日(木)当日消印有効)



総会は2022年12月14日(水)19時より同窓会役員室にて役員のみで行い、その様子はYouTubeにてリアルタイム配信いたします。(書面決議の結果も配信内にて公表します。)尚、配信後も視聴できるようにアーカイブされる予定です。

↓↓↓アドレスはこちら↓↓↓

<https://www.youtube.com/channel/UC8BrfmosT-RCcZQ58KGV2pw>

※YouTubeの検索欄からお探しの場合は「名芸大美術・デザイン同窓会」と入力してください

↓こちらは上記URLのQRコードです。スマートフォンなどでご利用ください

議決権行使書(返信ハガキ)を返送くださった
同窓生の方へは、後日お礼の粗品をお送りします。
ご不明な点等ございましたら、
メール(nua.ad.aa@gmail.com)
FAX(0568-25-4190)までお問合せください。



住所変更について 個人情報改正に伴う名簿情報 変更手続きのお知らせ

同窓会ホームページの
nuaadada.com/address-change/ を
ご覧になり、申請手続きをお願いします。

●以下をご一読ください。

- >個人情報保護方針について
- >住所変更手続き方法について

●書類のダウンロード

「個人情報開示等申請書(WORD/PDF)」
をダウンロード後、所定の事項を全てご記入の上、下記宛にご送付ください。

送付先(お問い合わせ)

(一社)名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会
〒481-8535 愛知県北名古屋市徳重西沼65
TEL/FAX:0568-25-4190

第49回 名古屋芸術大学卒業制作展 同窓会賞受賞者ご紹介

2021年度の第49回名古屋芸術大学卒展・修了制作展(2022/2/18～27)にて、企業賞として同窓会賞を2名、選出致しました。美術領域の受賞者は加納遙さん(芸術学部芸術学科美術領域日本画コース)の《棲み家》、デザイン領域・受賞者は新木萌愛さん(芸術学部芸術学科デザイン領域テキスタイルデザインコース)の《ぐるぐるcosmos》となりました。

受賞後のお二人に、作品制作の苦労や思いを語っていただきたいインタビューをYouTubeにアップしていますので、ぜひご覧下さい。受賞おめでとうございました!

YouTube:名芸大美術・デザイン同窓会ページ
<https://www.youtube.com/channel/UC8BrfmosT-RCcZQ58KGV2pw>



QUOカード券面に同窓会賞受賞作品を掲載しています。

昨年度総会の議決権をハガキでご返送くださった方全員にお礼の粗品として、QUOカードをお送りしました。その券面のデザインとして、同窓会賞のお二人の作品を載せています。

同窓会役員紹介

[2022年9月現在]

評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	評議員	監査委員	監査委員	理事	理事	理事	理事	理事	副会長	副会長	副会長	
44期	43期	42期	39期	39期	38期	36期	35期	33期	28期	28期	28期	23期	19期	6期	4期	4期	28期	4期	43期	23期	22期		
デザイン	アート	日本画	アート	日本画	アート	日本画	アート	日本画	彫刻	洋画	デザイン	デザイン	監査委員	監査委員	理事	理事	理事	理事	理事	副会長	副会長	副会長	
三浦 寛文	伊藤 光	帆刈 晴日	川口 聖生	磯部 純子	磯田 衣里	永田 敦子	福本 百恵	佐竹 亜希子	加藤 雄一郎	岡川 卓詩	小林 聰知	平田 隆宏	吉田 英美	平田 俊也	加藤 忠芳	福海 照久	山守 良佳	鈴木 淳子	浜辺 由美	石川 重明	荒木 紀江	篠田 邦彦	岩井 義尚
内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	内惟 奈	会計士	税理士	事務局長								

記事・その他のお問い合わせは…

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65

名古屋芸術大学西キャンパス内

(一社)美術・デザイン同窓会事務局宛

tel/fax:0568-25-4190(直通)

同窓会HPは大学のリンクからもアクセスできます。→ <http://www.nua.ac.jp/>

メール=nua.ad.aa@gmail.com

◆現在同窓会では、月一度の会議、年一度の総会、懇親会などの活動に積極的に参加・お手伝いくださる同窓生を募集しております。お気軽にお問い合わせください。



—2020年の会報誌「NUAPRESS no.27」にて
インタビューさせていただいてから、その翌年
2021年8月には名古屋栄のファッショビル、
ラシックで開催された「NUA ART SHOP」
へ出品。そして今年アート&デザインセンター双方からの協力を得られたこと、またご自身が以前よりお知り合いであつた豊島秀樹氏、小西康正氏のプロデュースを受けることができた甲斐もあり、着々と準備が進んでいきました。

色々と困難はありましたが、6月に無事展覧会がオープンできましたこと、関係者、そして観に来ていたいただいた方々、また日頃より活動にご理解ご協力くださっている、全ての同窓生の皆さんに感謝しております。

展覧会終了後、儀間さんに展覧会を振り返りながら、お話を伺いました。一次ページへ続く

展覧会データ▶▶▶展覧会名=名古屋芸術大学アート&デザインセンター企画展 儀間朝龍展「POP OR END」/会期=2022年6/2(木)～14(火)会期中無休、12:00～18:00、入場無料/会場=名古屋芸術大学 アート&デザインセンター WEST/主催=一般社団法人名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会/協力=名古屋芸術大学アート&デザインセンター、名古屋芸術大学/特別協力=豊島秀樹(gm projects)、小西康正(gm projects)、le coq sportif(デサントジャパン株式会社)/チラシ広告制作=水野真由46期卒デザイン学科ヴィジュアルデザインコース)/表紙/以降の写真撮影=小林哲也(同窓会役員、フォトックス・デザイン代表)



60点にのぼる、《LP POP》シリーズ
それぞれのジャケット(作品)に儀間自身の思いが詰まっている

儀間 まず、今回の展覧会を同窓会の皆さまのお力で実現させてくれたことに本当に感謝しています。前回のインタビューの中で、「名古屋芸大で展覧会を開くのが夢です」と書いたことが実現して、とても嬉しかったです。母校ということもあり気合を入れて取り込もうと、当初から思っていました。色々と検討して、今回の形が本当にベストだったと思っています。

編集部 ますますお忙しくなったという印象ですが、この2年振り返って如何でしょう、大きく変化はありましたか？

儀間 ありがたいことに、こんなご時世なのに展覧会やお仕事が、ゆるーく途切れなく続いています。やっていることは変わらないのですが、世間に少しずつ認めてもらっているという実感はあります。時代に制作スタイルが自然とフィットしてきたという感触はあります。でも、2020年の夏頃から本当に急に忙しくなったので体調管理で苦労しました。睡眠時間を減らしながらの作業は体に大きな負担を与えていたらしく、何度もキツイ時期を過ごしました。いまは、忙しくても上手くこなせる方法もなんなくつかめてきた感じです。これまで何度も展示を行ってきましたが、今回の規模は初めてでした。あの大きな空間をまとめられるか？と当初は不安になっていましたが、結果的にまとめる事が出来ました。そのこと



2日間行われた「ダンボールでノート作ろう」ワークショップの様子。東海テレビにてこの展覧会が紹介されたためか、家族連れの申し込みがとても多かった。



デザイン領域の学生と共に、この展覧会のZINEを企画・制作。50部限定で販売し完売！



『POP OR END』展のために制作された作品
『RECYCLE MARK』
世界中の国から届いたダンボールが、様々な問題を抱えながら、また世界を巡っていく。



儀間氏の作品アイデアとも言えるアイテム(本人私物)が並ぶ部屋。
初期に制作された、コラージュ作品の数々も展示されている。



rebodyのコーナー。制作方法の紹介やノートなどに加工された製品が並ぶ。
迫力あるダンボールの壁面。エントランスから会場までの壁面覆い尽くす。



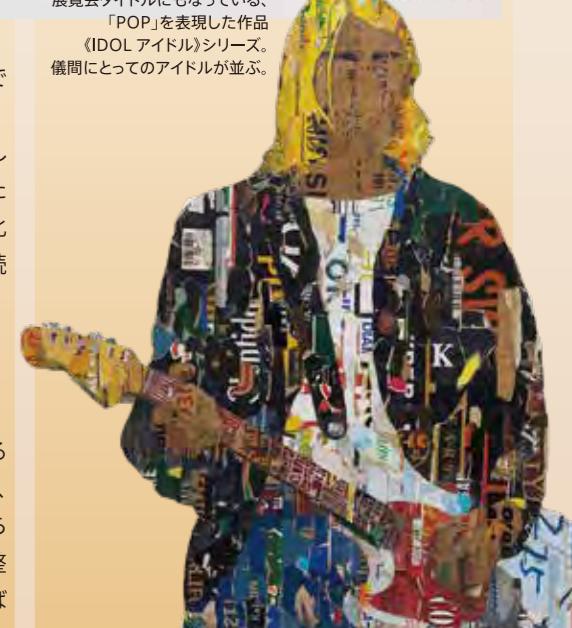
藤代冥砂氏、AKIKO Higuchi氏との写真でのコラボレーション作品を展示したルーム
またスポーツメーカー、ルックとのスニーカーコラボ作品を展示了



感染対策をした上で、オープニングセレブションも行われた。同窓会名誉会長青木から挨拶、その後、作品モチーフでもあるコーラで乾杯し会場を盛り上げた。ギャラリートークも開催され、多くの学生とのコミュニケーションで交流を深めた。また会期中、授業の一環として、この展覧会が取り上げられ話題となった。



展覧会タイトルにもなっている、
「POP」を表現した作品
『IDOL アイドル』シリーズ。
儀間にとってのアイドルが並ぶ。



えてやめたのですが、私の中では強い意味です。普段モチーフにしているのは誰もが知っているPOPなものが多めです。それらは恐らく永遠に残り続けるかもしれません。でも、反対にみんなの記憶に残る事なく消えていくものも多くあります。

40代後半によく自分のやってきた事が評価を受けてきたのはとても嬉しいのですが、このまま続けていられるかという不安もとどめあります。POPになりたいし、ENDにはなりたくない。そう、自分を戒めるためにも付けたタイトルです。流通と消費というコンセプトを元に制作は続けるとは思いますが、自分が消費されないよう気を付けなければいけないと感じています。このスタイルになって8年ほどになりますが、少しずつ表現も増やしたり、新しいことにも挑戦しています。

ていけたらと思っています。展覧会がきっかけでその事を強く感じるようになりました。大きな事を見る人に伝えるのはなかなか難しいとは思いますが、私の作品を見て「気づいた事」がその方のライフスタイルに少しでも変化をもたらす事が出来たら嬉しいですね。引き続き頑張ります。

編集部 今後の予定をお教えてください。

儀間 10月1日～10日に宮崎県都城市にあるwandarenさん(ワンダレン／セレクトショップ、イベントスペース)で個展があります。それから来年の個展の話が2つほどあるのですが、調整中です。今後も色々と柔軟にこなしていくべきと思っています。



展覧会初日にご家族と会場にて

儀間朝龍(ぎま・ともたつ) / アーティスト、rubodan代表

1976年沖縄生まれ。名古屋芸術大学美術学部日本画コース卒業し、2000年に版画コース研修生を終了。2004年にNYへ留学の後、沖縄をベースに活動を続ける。2018年、東京での初個展『SOME POP』をBEAMSのB GALLERYにて開催し大きな反響を得る。主な展覧会に、2006年「トヨタ・子どもとアーティストの出会い～子どもの可能性を開くアートの力」(森川養護学校、沖縄)、2008年「WANAKIO」(前島アートセンター主催、沖縄)、2012年「祝CAMK19周年！九州アート全員集合展」(熊本市現代美術館)、2013-15年「rubodan 段ボールのステーションナリー展」(D&DEPARTMENT OKINAWA)、2016年「POP COLLAGE vol.2 AMERICAN CASUAL」(WHITE SPACE ONE 福岡)、2017年企画展「宮崎アーティストファイル カラフル展」(高鍋町美術館、宮崎)、「AIR JORDANS」(旧若松薬品、沖縄)、2019年「SNEAKER POP」(Styles代官山、東京)、2021年「23」(wearasterisk、香港)、2022年「SNEAKER + LP POP」(koe hotel、東京)／儀間朝龍 + 藤代冥砂「CITRUS & SUN DANCE」(roll、東京)、「儀間朝龍POP OR END」(名古屋芸術大学)、他。企業とのコラボレーションや、雑誌等の作品提供など、精力的に行う。

☆詳しいプロフィールや、最新の情報については次のサイトをご覧ください。
▶ホームページ <http://gimabox.com> ▶Instagram @tomotatsu_gima

“PICCOLO MONDO:小さな世界”

アニメーションと造形教室の内なる世界観

佐藤美代さん 38期卒 デザイン学科 メディアデザインコース

『きつね憑き』2015年制作／キネコ国際映画祭2016、日本作品賞短編部門グランプリ受賞、他受賞多数

——卒業後、東京藝術大学・大学院映像研究科に進み、アニメーションを学んだ佐藤さん。藝大院修了制作の「きつね憑き」が国内外・数々のコンペティションで評価されました。それをきっかけに、アニメ業界・テレビ等、色々なジャンルでアニメ制作のお仕事をされていらっしゃいます。

今回、名古屋芸大でワークショップを行うということで、この機会にお話をうかがいました。

——デザイン領域イラストレーションコースの「サンドアニメーションワークショップ」、2日間お疲れ様でした。イラストの3年生が対象でしたが、いかがでしたか？学生40人を相手に2日間（180分×2日分）の中で、上手く纏めて指導なさっていて、感心いたしました。学生さん皆素直で積極的でした。

佐藤 とても楽しい時間でした。これまでにも何箇所か大学生や専門学生などで、このようなワークショップをしたことがあります。今回はいつもイラストを描くことに親しんでいる学生が多いせいか、積極的に取り組む学生が多く、飲み込みも早く感じました。アニメーションを作るには同じような絵を何枚も書かなくてはいけないので、そういった地道な作業も慣れているのでしょうか。

——名古屋芸大卒業後も制作や発表を続けていらっしゃいますね。

佐藤 卒業してからは2年間くらいは就職もせず、アルバイトをしながら作品を作りたいと思っていましたが、実際は本腰を入れて制作は出来ませんでした。ただ、アニメーションを本格的に作りたいという思いは強く、ちょうどその頃に名古屋の知り合いのミュージシャンに頼まれてミュージック・ビデオなどを作ったりする中で、色々と自己流で試してみたりしながら完成させ、現在に繋がるアニメーション技法に辿り着いたところがあります。

——もっと学びたいということで、東京藝大の大学院に進むのですね。

アニメーション専攻があるのを知り、少し気になっていました。ただ、上映会や作品制作をしながら仕事をするか、一度名古屋を出て学生に戻るかという間で迷っていました。その頃、広島アニメーションフェスティバルという映画祭を行った際に偶然藝大に通う友人に会って、進学について相談すると、「作りたいものがあつたら来た方がいいよ！」と背中を押された気持ちになり決意しました。

授業の感想も、「難しかった」とかより「やれて良かった」「楽しかった」などポジティブな感想が多くて、やってよかったと思いました。今後アニメーションをやる、やらないに関わらず、良い機会になったのであれば嬉しいです。

今回の授業担当である片山浩先生（デザイン領域准教授美術学部21期卒）には、学生の時には版



名古屋芸大でのワークショップ。
学生に熱心に説明する佐藤さん。



上写真／授業の最後で、学生の作品を全員で鑑賞。



下写真／制作の様子。チームごとに考案した絵コンテを元に、砂絵をガラスの上に描き、撮影。さらにも少しづつ絵に手を加えては撮影し、アニメの1コマを作り上げていく。

——アニメーション専攻には山村浩二さんがいらっしゃいますが、名古屋芸大でも特別講義や展覧会が開催されました。憧れの存在でしたか？

佐藤 山村浩二さんが藝大で教えていたというのも大きいです。作品上映も観に行き圧倒され、雲の上の存在のような作家さんでした。藝大に入ってからは山村さんのゼミに入りました。穏やかな雰囲気の人柄でありながら、抜け目がないシャープな部分も持ち合わせていて、独自の視点を持っている方だと思います。一流の作家の姿勢を垣間見せてもらった様に感じました。

——院修了制作の作品『きつね憑き』（2015年）は、国内外のアニメーションのコンペにて数々受賞されています。

佐藤 主要な映画祭には大学から学生作品をまとめて応募することになっています。韓国のSICAFというアニメーション映画祭で学生部門グランプリを受賞した時は、初めての映画祭での受賞だったので、とても嬉しかったです。残念なことに受賞式には出れなかったのですが…。

また、受賞はしませんでしたがスロベニアやアルメニア、ドイツなどの国にも作品上映がきっかけで行くことができ、国によって映画祭の形も様々でとても良い思い出になりました。

——原作である新美南吉の『狐』に基づき、舞台となったであろう愛知県半田市で取材されたそうですね。こういった縦密な土台作りが、評価に繋がっているのではないかでしょうか。

佐藤 ずっと、普遍的なテーマの物語を扱いたいと思っていました。原作の「狐」を読む機会があり、いつかこのお話をアニメーションにしたいという気持ちが自然に沸き上がって来て、しばらくあたためていました。原作に出てくる山車のお祭りは実際に愛知県半田市で行われているので、取材に行きましたが、祭りの空気を味わってから制作に入れたので、作品に対する想いもより一層ふくらんだと思います。技法に関しては、ガラス板に絵の具で絵を描いて



あそびうた・わらべうたを題材にした短編アニメーション「あのねのかばちゃん」監督・アニメーション・作詞、2018年



TVアニメ「モブサイコ100」エンディングアニメーション制作（© ONE・小学館「モブサイコ100」製作委員会）



TVアニメ「ポプテピック昔ばなし」コーナー担当、2018年（© 大川ぶくぶ／竹書房・キングレコード）

は消してを繰り返してアニメーションにしていく「ペイントオングラス」という技法と砂絵を組み合わせて、現実とファンタジーを自然な形で繋げたいと思って作りました。

——躍佐藤さんのお名前が世間に広がったのはTVアニメ版「モブサイコ100」ですね。

佐藤 初めてのTVアニメ参加作品です。1期と2期の監督（3期では総監督）の立川謙監督が、本編中にペイントオングラス技法を取り入れたいと希望があり、巡り巡って偶然私の名前が挙がったというのがおそらくのきっかけです。

本編中の特殊カットと同時にエンディングのお話も來たので、びっくりしました。ただEDはもちろんTVアニメ作品に関わること自体初めてだったので私に務まるのかと不安でした。

そんな中、「靈幻の朝」（靈幻=主要キャラクター）

をテーマにロトスコープ（実写映像の動きをベースにした技法）で作るのはどうかという提案をい

ただいて、それなら出来そう！と思いました。

想像以上に制作中は忙しく、とにかく完成させねばと思っていたので苦労したところも忘れてしましましたが、しいて言うなら仕事なので締め切りに間に合わせるところです…。特にアニメの制作現場は、色々な役割担当の方が昼夜常に動いているので、皆さんに巻き寄せがいかないように気をつけながら仕事をしていました。

——TVアニメ版「ポプテピック」の8話と11話で、「ポプテピック昔話」の作画を担当なさいましたね。SNS上で『油絵アニメ』（エンディングロールにクレジット）がとても話題になっていました。



絵画・造形教室での様子

——子供たちへの教室はライフケアになりそうな感じですね？

佐藤 確かにそうです。こちらは仕事の感覚とはまた全然ベクトルが違い、参加してくれる親子や子供たちのためのよう、私自身のライフケアにもなっていて、同時に色々なことに刺激を与えてくれる活動もあります。

参加してくれる子供たちや親御さんにとって、学校や職場、家以外でこういった場所があって日々

の暮らしがより楽しくなるといいなと思ってやっています。

——今後の予定などお知らせください。

佐藤 「モブサイコ100 III」にて、本編の特殊カット及びエンディングで参加いたします。（放送10/5より：TOKYO MX毎週水24:00～／BSフジ毎週水24:30～）
今年はまたTVアニメの仕事に関わる機会が出来、思い入れの強い仕事がまた一つ増えました。来年は、後回しになってしまいがちな新作の制作や、個展開催（名古屋や信州も視野に入れて）など、発表の機会を作っていくと思っています。



本人近影

さとうみよ：名古屋市出身。アニメーション作家。名古屋芸術大学デザイン学科入学後、2009年にアニメーション制作を始める。愛知県内で上映会の企画やアニメーション・ワークショップを不定期で開催。

2013年東京藝術大学大学院アニメーション専攻入学。「Through the Windows」（2014）、新美南吉原作のアニメーション「きつね憑き」（2015）を制作。国内外の映画祭で上映される。ペイント・オン・グラス（ガラスの上に絵具でコマ撮り）や砂絵アニメーションからデジタル作画の作品まで技法や幅広いジャンルで制作している。2019年、個展「MIYOATURE」を開催。OHPを使った砂絵、絵画のライブパフォーマンスの他、ワークショップなどを企画。2020年、子ども絵画・造形教室ピコロモンドアートをスタート。



<https://piccolomondoart.amebaownd.com/>

“工芸から逸脱した先にあるもの”

「ライオンといっしょ-名古屋と東京と」

中田ナオトさん 25期卒デザイン科セラミックデザインコース



『ライオン像が泡まみれ!』とメディアを賑わした企画展示、中田ナオト展「ライオンと一緒に名古屋と東京と」を取材しました。これまでにも名古屋三越／ラシックではアートやデザインを扱うショップなどが展開され、昨年に引き続き今年も同窓生の作品を販売する『NUA ART SHOP』が出店されるなど、現代アートを盛り上げたいという意気込みを感じます。中田さんの展示会場で今回の企画や作品について話を伺いました。

——ラシック(中区栄)での展示を拝見しました。ライオン像を撮影したバーナー、SNS等話題となったライオン像をシャンプーする映像など、中田さんの多彩な一面が表現されていました。

中田 三越の美術画廊で働く大学の同期から依頼を受け、「アート&クリエーション」という名古屋栄三越を1週間アートで飾る企画にお誘いを受けました。最初は三越内のブースでとのお話でしたが、「アートで盛り上げる」という趣旨からスペースの広いラシックのパサージュでの展示となりました。これまでパサージュではショップ展開はあったものの展覧会の開催はなく、美術画廊で扱われてきた作家と作品の雰囲気も異なるためイメージしづらいことが多かったかもしれません。

——そんな中、ライオン像を洗うという行為は三越内でも衝撃だったと思います。終わってみていかがですか？

中田 僕はサイトスペシフィックな表現にやりがいを感じることが多いので、三越特有の何かに積極的に関わる企画を考え、三越といえばライオンという印象をダイレクトに使おうと思いつきました。三越の創始者日比翁助は無類のライオン好きで自分の子供に「雷音」と名付けたくらいで

すから、ここに注目しない手はない。「人間のシャンプーのようにライオンを泡々にして、一瞬だけ百獣の王が羊のような可愛らしさを纏うのは面白さを説くだろう」と思ったのです。様々な部署での検討を重ね、ようやく許可が出ました。この内容は予想を上回る反応で、三越伊勢丹グループ内の会議でも「名古屋栄三越は何やら面白いことをしている」と話題になったそうです。準備期間は短かったですですが瞬発力とスピーディスの効いた、ここでしかできない作品になったと思っています。

——今回は昨年度卒業した吉田百花さん(49期卒アートクリエイターコース)も、「蓄積」と題したビデオとインスタレーション、撮影に使用した衣装作品を本館の2箇所に展示され、お客様の目を惹いていました。彼女は中田さんの教え子になりますね。

中田 彼女は在学中から発表することに貪欲で、積極性に満ちていました。今回の展示も持ち味の奇抜さや実現へと突き進める好奇心が存分に發揮されていて、作家としてより一層の刺激的な展開を期待するとともに、これまで以上に同時代と未来を見据えた行方を望みます。これからが本当の勝負ですね。



営業に支障が出ないよう
開店時間前にライオン像を洗った

名古屋栄三越の店内では吉田百花さんの作品《蓄積》も、『ART & CREATION』の一企画として展開されていた。

——また、現在(9月19日まで開催)、瀬戸市新世紀工芸館の企画展として2人展「73 中田ナオト 松藤孝一」展が開催されました。展覧会コンセプトを交え、陶とガラスという素材がご自身の表現にどのように作用しているのでしょうか。

中田 やきものは私たちの生活に根差し、あたたかさや優しさを感じさせ、そして僕の変身願望を満たしてくれる素材もあります。焼成による作用(「する」と素材が変化「なる」)によって生まれ



シャンプーする映像を観ながら、楽しそうに語る中田さん。

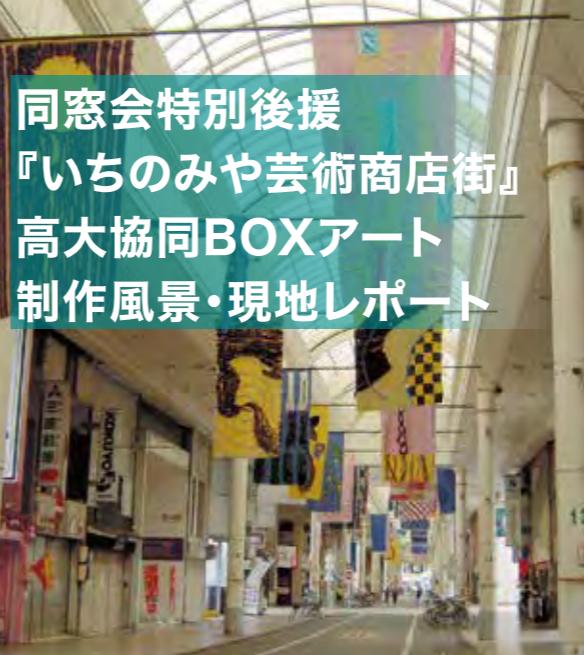


瀬戸市新世紀工芸館企画展「73 中田ナオト 松藤孝一」
22/6/25~9/19まで開催された。



なかだなおと／1973年、愛知県生まれ。
1998年、美術学部デザイン科卒業後、多摩美術大学大学院に。2000年に修士課程美術研究科修了(芸術修士)
主な展覧会
2022年:国際芸術祭BIWAKOビエンナーレ2022
“起源～ORIGIN”(沖島、滋賀)、『ホモ・ファーベルの断片 一人とのものづくりの未来』(愛知県陶磁美術館／愛知)、2人展『73 中田ナオト 松藤孝一』(瀬戸市新世紀工芸館)
2021年:『landschaft 景の園』(白鳥庭園／愛知)
2020年:個展『ブレイランド！ P[L/R]AY LAND!』(ギャラリーニュウ、愛知)
2016年:個展『中田ナオト一出会いとひらめきの信楽時間』(滋賀県立陶芸の森陶芸館ギャラリー)
2013年:個展『2011ミネアポリスへの旅』(SAN-AI GALLERY+contemporary art、東京)ほか多数

同窓会特別後援 『いちのみや芸術商店街』 高大協同BOXアート 制作風景・現地レポート



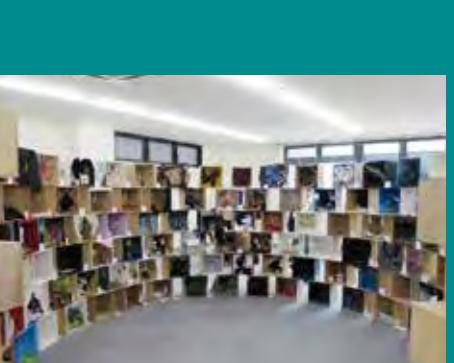
今年開催された『STILL ALIVE 国際芸術祭あいち2022』の、会場となった一宮市。そのパートナーシップ事業として企画された、「いちのみや芸術商店街」(2022/8/10-10/10)を同窓会が特別後援いたしました。

この企画は一宮会場の入り口となる一宮駅前と近隣会場に広がる商店街エリア(一宮市本町商店街)に、アート作品を展示して盛り上げていこうと始まりました。参加者は一宮市内の高校と名古屋芸大学生(テキスタイル、メタル&ジュエリー各デザインコース、工芸ガラス・陶芸コース他)、同窓生の総勢340名。

高大連携のBOXアートを提案し、その窓口となった同窓生・中島さんにもお話しを伺い、展覧風景もレポートします。



上写真 真清田神社へ続く道に、メタルできただツタの葉が伸びている／下写真 ホテルのエントランスに展開したショップ『Print for Sale』



中島良輔さん。ワークショップを終えて。

中島良輔さん
(愛知県立木曽川高等学校 美術教員)
37期卒デザイン学科
スペースデザインコース

任が居るとそこで諦めてしまう子を救うことができるんです。

大学とのつながりで言えば、去年、駒井さん(駒井貞治デザイン領域教授)から高大連携の話があり、生徒が文化祭でツリーハウスを作りましたが、ノウハウを教えて欲しいと夏休みに高校生と工房で作業させてもらいました。この年は名芸志望が増えましたね。外とのパイプを繋ぐことでそのジャンルに行きたい気持ちの後押しになるんだなと思いました。

大学ではスペースデザインで学んだわけですが、元々油彩がやりたくて、30才過ぎてからやり始めた作家活動もしています。高校の教員は広く浅く求められる部分があるので、心にあった美術表現と大学でやってきたデザインの考え方のどちらにも生徒に還元できる部分があって、そこをミックスすることが自分らしさかなと思っています。



7月末、名古屋芸術大学西キャンパスにて、BOXアートの制作のため県立一宮工業高等学校、県立木曽川高等学校の参加者が集まつた。一宮らしく織物の端材など、中島さんより説明を受けながら構想を練る学生達。最後は担当した名芸大教員(左より中田准教授・米山教授・駒井教授)からも講評を受ける。